

2018年度 事業報告書

2018年 1月 1日から 2018年 12月 31日まで

認定特定非営利活動法人 アジア教育友好協会

1 事業の概況

2018年度は、前年度繰越金56,354千円を引き継ぎ、事業を開始しました。事業資金は121,744千円となりました。

学校選定を慎重に進め、14校を建設（完成済は7校、7校は建設中）しました。2005年の事業開始以来14年間で累計286校となりました。今後も新規事業への挑戦・事業基盤の強化を図りつつ、事業の継続に全力を尽す決意です。

ラオスでは昨年に引き続き、サラワン県タオイ郡ピコ地区に小学・中学・高校一貫校を目指してピコ中学校を建設しました。地域内の小学校からの生徒が通う基幹中学校を目指して、今後とも教育環境の総合的充実を図るプロジェクトとして推進します。現地行政・パートナーNGOとの連携で一貫校を整備してゆくことで、村を纏める求心力・村発展への推進力も高まり、また村同士の融和も進みます。現地の人々と共に必要な支援を考え、自主自立を促し・見守り・共に歩むと言う「AEFAプロジェクト」が日本の海外学校建設支援モデルになるよう、一層の努力を継続します。

2018年度も、現場への視察や開校式へ参加することでBEFORE/AFTERの成果を実感。支援プロジェクトと一緒に話し合うなど支援者の参加意識の向上に努めました。その結果、学校建設だけでなく、教員のインカムジェネレーション（牛銀行・やぎ銀行）、教材支援、学校遠足・修学旅行など教育の質的向上支援、交流事業への参加など、様々なフォローアップ事業を実施できています。

このほか、初めての取り組みとして、パナソニック株式会社との協働でソーラーランタンを届けるクラウドファンディングに挑戦、達成しました。

交流事業は、日本の小中学校とのフレンドシップ交流を推進すると共に、出前授業を積極的に実施しています。今年度は56回実施し、累計は706回となりました。東京都教育委員会から紹介の出前授業を活発に継続（44回実施）する一方、神奈川県・千葉県など首都圏、福島県・宮城県での出前授業も継続推進しました。

出前授業とフレンドシップ交流が定着し、子供達からの支援も継続しています。日本の生徒たちからの支援総額6,009千円、14年間累計では30,124千円になりました。学校の国際交流事業への理解が深まっている証とも言えましょう。学校からの寄付が集まるNPOは稀で、AEFAとしては今後とも教育現場との連携と信頼関係を築いていきます。

AEFA事業推進に重要である現場主義の徹底を図っています。理事・スタッフ・参与の現地出張は15回（理事長6回・事務局長2回・田中1回・理事/参与6回）となりました。また、AEFAインターンによる現地出張視察も増加し、彼等の協力も得つつ、20校の開校式を実施しました。

尚、会員数は個人会員180名、法人会員18社、会費収入は昨年比255千円減の1,665千円になりました。これは、2018年の会報発送が1回のみであったため、発信が弱まったことが考えられます。

今後とも会員の維持拡大に努めると共に、ボランティア、プロボノなど活動に関わる人々の輪を広げる努力を続けることが大きな課題でもあります。

2 事業の成果

1) 学校建設事業について：事業費＝建設費/83,396千円＋活動費/10,668千円＝94,064千円

本年度も継続支援者や新規支援者から多額の支援を受け14校を建設。国別では、ラオス8校、ベトナム3校、スリランカ2校、ネパール1校となりました。

初の事例として、ベトナムの現地企業が日本企業と一緒に学校建設を支援。ベトナムの学生団体との協働で寮を建設するなど、NGOだけでなく様々な関わりでプロジェクトを行うことができました。

AEFAの活動理念を理解し、共感する支援者が増加するに伴い、ソフト事業の維持継続もできました。ベトナムでの奨学金や、山間部の小学校寮生に冬服支援を通してものを大事にする心を醸成する

プロジェクトは、「ドンズー日本語学校」との協働事業です。ラオスでは、職業訓練校を卒業した奨学生が、大工として建設事業に参加しています。また、子供の人権保護プロジェクトを積極的に継続実施しました。

建設事業は、日本財団からの助成が無くなった後も順調に進展しています。結果として、累計ではベトナム162校、ラオス100校、タイ14校、スリランカ6校、中国2校、ネパール2校、の総合計286校（AEFA独自資金170校・日本財団116校）となりました。

AEFAとしては、これら既建設校のフォロー事業が次なる課題です。日本の子供たちの募金で校舎修復を行ったり、村の団結強化と自立の為、村の集会所を建設支援したり、貧困改善のために野菜の苗を配布するなどしています。

<2018年度建設校一覧別添>

2) 国際交流事業について：事業費＝交流費/2,659千円＋活動費/5,601千円＝8,260千円

本年度はフレンドシップ交流及び出前授業実施を行った学校数は延べ50校を超えました。子供たちだけでなく、学校公開日の出前授業で、保護者が参観するケースも増えました。

- ① 本年度も交流事業や出前授業は充実しました。東京都教育委員会から小中学校への紹介が継続され、新規問い合わせも増え、都内での出前授業は44回となりました。2019年度は東京都教育委員会「後援」が許可される見通しとなりました。首都圏や地方での出前授業も積極的に推進し、千葉県・神奈川県、福島県などで継続実施しました。合計56回、累計では706回となりました。
- ② 出前授業の講師団の強化も図っています。フレンドシップ交流校の校長OBも講師となっています。
教員経験者だけでなく、新たな出前授業講師の育成、フレンドシップ交流に特に熱心な教師との連携を推進。今後はこれらの教師・教師OBとともに国際理解教育の推進や交流事業の進化を図ります。
- ③ 3月には、神奈川県・鎌倉学園中学校高等学校の第四回ベトナム研修ツアー（生徒60名・教師3名）を支援。生徒たちの資金で建設されたクアンナム省ホアンバントゥ小学校開校式を実施すると共に、運動会の開催及び子供達との交流を実施。生徒達の意識改革に大変役立ったとの評価を得ました。
- ④ ベトナム・ドンズー日本語学校の日本への留学生と共同で、ベトナムでのソフト支援や出前授業、交流事業を推進しています。

3) 広報活動について

今年度も広報活動を積極的に進め、AEFA会報26号を発行しました。広報活動の一環として早稲田大学木村達也教授の研究会などで、理事長の講演を6回実施。結果として、雑誌「プレジデント」や書籍に紹介され、学校建設事業への寄付支援者が新たに増えました。今後も発信力を強化するために、積極的に講演等を行います。

3 事業の実施に関する事項

当期収入額	121,744千円＝一般寄付他120,051＋会員会費1,665＋他28
当期支出額	111,148千円＝建設事業費94,064＋交流事業費8,260＋管理費8,824
当期事業収支	10,597千円・・・（期末正味資産＝66,951千円）

<対事業支出額内訳>

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
建設事業	① <学校建設> ベトナム・ラオス・スリランカ・ネパールの山岳地域の学校建設及びメンテ ② <地域自立支援> 学校建設地域の学校維持を主旨とした生活力向上の為の支援 ③ <奨学金及び教師育成事業> 奨学金事業及び研修会など	2018.1.1～ 12.31	4カ国 14校	4名	地域の住民及び子供生徒数： 1校平均150名程度 合計 約2000名 地域活性化策として 農業支援・村の集会所 建設などの支援 教師数：80名 奨学金：短大生10名 小中生50名	94,064
交流事業	①現地建設校と日本の学校との教育関係者同志の交流、児童の作品交換などを通じての姉妹校提携推進 ②出前授業：東京都44回、地方10回。計54回(累計704回)	2018.1.1～ 12.31 2018.1.1～ 12.31	4カ国 85校 (日本50校) (海外35校) 各地域	4名 8名	現地1校当り 約100名 日本1校当り 約100～200名 各回：約100～150名 合計：約8,000名	8,260

2018年度 建設校一覧

	国名	地域	学校名	支援者（敬称略）
1	ベトナム	トゥエンクアン省	ドンカン小学校	沖縄ワタベウェディング株式会社 株式会社ブラネットワーク WATABE WEDDING VIETNAM CO., LTD 株式会社ディアーズ・ブレイン
2		バクザン省	ゴックタン小学校*	アジアの子供たちに小学校を作る会 木村 敬道 サンヨー食品株式会社
3		ゲアン省	フォイモイ小学校*	N&V Bridge WATABE WEDDING VIETNAM CO., LTD 株式会社ディアーズ・ブレイン
4	ラオス	サラワン県	ピコ中学校	WANG基金（藤原和博）
5			カムトン中学校	株式会社フォーサイト
6			ナボーン中学校増設及び女子寮	株式会社フォーサイト
7			ホーコンナイ中学校*	山田 浩司
8			カトゥア小学校*	戸部 克信
9		チャンパサック県	マイバンマセル高校*	荒川商業高等学校同窓会 桐門会
10			ムーパッディ小学校	立石 道博
11			ドンライ小学校	アジアの子供たちに小学校を作る会
12		ケゴール州	ボーサレー小中学校*	エルセラーン1%クラブ
13			イハラ・タルドゥワ小学校*	エルセラーン1%クラブ
14	ネパール	ナラヤニ県	ジャナター小学校	WANG基金（大前研一）

*は現在建設中(7校＝ベトナム2校－ラオス3校+スリランカ2校)

別表ー2 2018年度 その他・支援一覧

- ベトナム:キエンティエット小学校 レインボーライブラリー
- ラオス:バシア村集会所、やぎ銀行、遠足プロジェクト
- ラオス:マイバンマセル高等学校女子寮、井戸追加
- ラオス:子どもの人権保護プロジェクト(ChildRightsPromotion)、遠足プロジェクト
- ベトナム:青葉奨学金＝AEFA学校卒業生 黄梅奨学金
- ベトナム:チャーレン小学校女子寮
- ベトナム:暖かい冬を届けるプロジェクト＝冬服支援
- ラオス:ミニ黒板＝もったいないプロジェクト
- ラオス:音楽の授業に使う民族楽器
- ラオス:ノンコーソン小学校プレイコート

支援者（敬称略）

沖縄ワタベウェディング株式会社
WANG基金（清水新六）
森田聖一、山岡真稚子、安澤富士子
トレノケート株式会社、セカンド・オピニオン株式会社
銀河ネットワーク、ブロードウェイ株式会社
大野美之、三浦三博ほか
匿名希望
昭和小学校
株式会社東京黒板製作所、日本理化学工業、太田俊哉
株式会社クローバー
谷川 裕

（以上の他にも、小学校からの募金の寄付、かんき出版等多くの方から多様な形で、ソフト支援・交流支援も頂いたこと、付言します）